

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス・児童発達支援あそび		
○保護者評価実施期間	2026年1月16日		～ 2026年2月28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	43	(回答者数) 41
○従業者評価実施期間	2026年1月16日		～ 2026年2月28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	13	(回答者数) 13
○事業者向け自己評価表作成日	2026年3月21日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	保育士としての経験を活かして、家庭的な雰囲気の中、長時間の預かりを可能にしている。平日学校からの帰宅時には、「おかえり」「ただいま」が合言葉となっている。犬とも触れ合えることで、不登校の子ども達も楽しく過ごすことができている。室内だけでなく、庭や畑での活動も充実させ、自然の中で体験も多く取り入れている。	幅広い年齢層の職員で構成していることで、おじいさん・おばあさん・お父さん・お母さん・お姉さんと一緒に居られるような、安心した居場所作りを意識している。また、庭では季節の野菜や果物、花づくりも行っている。公園には、雨の日でない限り行くことができるようにプログラムに組んでいる。動と静の活動両方を盛り込んでいる。	通所していた卒業生にもアルバイトで来てもらい、「卒業しても居場所がある」「私たちは繋がっている」という気持ちに、皆でなっていけたらと思っている。受かった大学や通っている高校を教えに来てくれる卒業生もいる。繋がった全てのご縁を大切に、今後何が展開できるか考えていきたい。
2	長期休みや祝日に、様々なイベントを計画している。それによって、通常では実施できない体験学習も展開できている。田植えや、稲刈り、ブドウ狩りイベントも実施した。陶芸体験を通して、物を大切に扱うことができるようになった子どももいる。	年齢制限を設けることで、安全安心に実施ができるようにしている。また、小さな子どもたちには、「大きくなったら〇〇イベントに参加できる!」と期待を膨らませたり、見通しを持つことができたりするような配慮をしている。異年齢の子ども同士が支え合い関わり合えるような工夫も行っている。	毎年恒例のイベントを大切にしながら、新しいイベントにも取り組んでいきたい。保護者の方や地域の方、現在の繋がりを持たせていただいている方々の力も借りて、子ども達の体験できる幅も広げていきたい。
3	園や学校との連携を密に図っている。支援会議や下校時のお迎え等で情報を共有し、療育に活かしている。	下校時刻や行事についての情報を得るだけでなく、普段の子ども達の様子も何かあれば聞くようにしている。子どもの主軸となる学校生活を意識して、子どもたちが学校で安心して生活できるサポートを行えるよう意識している。	中学校支援学級・小学校・支援学校に在籍している子どもについては全員、全ての学校へ行き会議を行ったが、園と中学校通常級在籍の子どもについては、全員の会議までは行っていないので、今後はそこも拡充していく。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	個別・少人数での時間もあがるが、集団でのプログラム活動が多くなる。集団の中での個別の対応をきめ細かくやっていくことも意識しているが、難しさも感じている。	皆が気持ちよく過ごしていけるようにと、子ども達の特徴や子ども達同士の相性も考え環境を整えているが、流動的な子ども達の動きの中で、予測や配慮ができないこともある。	こちらが配慮しなければならない面と、配慮を敢えて無くしていき、子ども達側の成長を促していった方がいい面とを見極め、環境を整えるようにする。躰かないようにする事前の配慮と、躰いたときにどうそこから学んでいくかのサポートの面の両面を磨いていく。
2	「学校での国語や算数の成績が心配である」とお声をいただく。宿題をする時間も設けているが、高学年になればなるほど、全ての宿題を済ませる時間は確保できない。また、分からない問題が分かるようになるまで、付きっきりで対応できる時間の確保は難しい。	療育プログラムが、さまざまな活動を盛り込んでいるので、一つの時間に割ける時間も決まってくる。子ども達の自主性を大切に、宿題が全て終わってなくても、「このだけは終わらせ」と決めていた宿題が終われば、公園の時間が来たら公園を優先するなど、子どもに合わせて調整を行っている。	学校がある平日預かり時は、どうしても長時間の座学の時間の確保は難しいが、その代わり、長期休みではいつもより多めに座学の時間をとるようにする。また、保護者支援を充実させ、家庭での勉強の仕方や問題の解き方のポイントなどをお伝えし、家でも学習の時間の確保をお願いする。
3	学校や園との連携会議の時間が持ちにくい。	子どもが来所している時間は子ども優先でいきたいので、会議は午前中を希望したい。しかし学校や園も、子どもが居る時間帯に会議の時間は作りにくい。双方の都合の良い時間が重ならない。	現在、夏休み等の長期休みを利用して、計画的に実施している。学校の方にも1年間に一度は会議を持ちたい旨をお伝えし、数か月前から依頼をして、実施に繋げている。今後なんとかやりくりして、拡充していきたい。